令和５年度　東京体験学習

日本の鉄道インフラを支える仕事

作成者：２年１組　高橋康之助
２年７組　八木　優太

下の写真は、私たちが最終日の8月4日に訪れた鉄道運輸機構での講演の様子です。小倉高校のOBである藤浪武志さんと井浦智実さんがお仕事や高校時代のお話をしてくださいました。

１．鉄道運輸機構とは

鉄道運輸機構は国土交通省の出先機関で、交通インフラの整備、災害対策を行っています。また、海外へ新幹線技術を輸出しています。

鉄道インフラの建設には税金を使います。しかし、利潤を求める企業であるJRが税金を使うことはできません。そのため、独立行政法人である鉄道運輸機構が建設を担い、路線を貸し付けています。

２．先輩方の高校時代について

藤浪さんと井浦さんには、現役倉高生時代のお話をしていただきました。藤浪さんはラグビー部に、井浦さんはバスケ部に所属しながらも部活と勉強を両立し、九州大学に現役合格したそうです。その際、藤浪さんはモノレール内を勉強場所とするなど当時の多くの工夫を教えてくださいました。「自分をその気にさせる」という考え方など、受験に向けた気持ちの作り方を学ぶことができました。

３．感想

新幹線建設が自分の想像を超えたスケールで行われていることや、防災対策にも力を入れていることを知り、その事業の規模の大きさに驚いた。身の回りにあるものの背景には多くの人の関わりがあることを理解し、何事も関心を持って知ろうとする姿勢が大切だと思った。（八木優太）

新幹線の線路やトンネルは完成に時間がかかるが、自ら建設した新幹線に乗る機会があってやりがいがあると感じた。また、災害対策では少子高齢化とともに解決する新たな施策もあって、興味を持った。（髙橋康之助）